明治四十一年三月二十七日第三種郵便物認可　日刊（月曜日及祭日の翌日休刊）　明治四十二年七月二十日（火曜日）　第百六十五號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

片言隻語

エーヌ生

○吾人は輕卒を排す、突飛を忌む。親の脛嚙りをする者元より男一疋の事に非ず、然れども對岸の花に心醉して無暗に激流に飛込み、中途にして溺れんは賞めた業に非ざる也、否自己一人の生命が破滅するのみならば自業自得なり、延て親兄弟までも悲境に陷らしむる如きは餘りに得手勝手也、巨木を倒す場合には、豫め先づ確固たる逃避の所を選ばざる可からず、世の利慾に趨る者、宜しく此覺悟あるを要す。

○とは言へ一個社會に位置を有する者にして活躍力を發作せず、晏如としてよいれ旦那になり濟して了ふは吾人の斷じて採らざる所也、思ふに現代は常識的利巧者の多き世なり理屈屋の世界也、科學萬能と言ふ次第也。斯かる事は有り得べからずとか、斯かる事は爲し得べき限りに非ずとか、何れは勞少くして利多き捷徑を擇び、其間幾何の無理横道も押通すと言ふ風也、深いを少し小面倒な事はエ、煩いと拋り出す、輕薄也、小才子的也、狡猾也、斯の如き連中が成功すると所謂小旦那に成り濟して己性の快樂に醉ひ、「中庸主義」とか何とか小悧巧者になる也。

○中庸主義とは隨分誤解され易き言葉也。吾人の自己の力量を恃むもの也、天賦を自覺するもの也、此力量を深く恃みて勇往邁進すれば、何事か成らざらむ、自信なければ元より無謀也、自覺なければ元より前途は眞暗也、盲從或は倚頼心は斯かる場合に起る、苟くも自信あり自覺あり、以て獨行創造を爲し得てこそ、茲に始めて「吾」てふ一個の神靈は生命あれ、生きて侯伯たり得ずんば正に死して閻羅王たらんと、斯は吾人が立脚の根底也、此根底あり、而して尚機至らず平々凡々たらばそは正に立派なる平々凡々也、只吾人は「中庸主義」そのものを排斥す。

○瑠璃天の夜、王李百万耿々降らんとす、則ち銅盤に淸水を盛りて之を庭上格好の所に置く。波紋脈々中央より擴ごりて升の全く靜平に歸する時、見よ、其盤底深く落ちたる螢光の如き星の歷々たるを。就て思ふ小人の觀察批評の事をなすや、多く此一盤底の星を以て、直ちに蒼旻の大に擬せんとす、浩歎すべからずや。

○われ昨日戯れに現代衛生五誡なる物を作る、試みに之を擧げん乎。曰く、ウムと勞働してウムと食へ、胃病や不眠症は呼んでも來ぬぞ。曰く、藥をくすりと思ふな、毒と知つたら食はぬか第一。曰く、唯我獨尊と思ひ、頭を下げるとロから風を引くぞ。曰く、否ぺーもせよ、屁も放れ、人に褒められたら煩悶病怖可。曰く、盲目的欲情は、旋て厭世患を招くと覺悟せよ。

○開放主義も結構なれど、自分の價値を見せたさに、端の人を突倒してまで我藝のありつたけを並べて了ふのは淺薄なる人也。いや氣の毒なる人也。或意味に於て其人は自殺者也。

講談

中山大納言

第二席　桃川燕玉　演

御家來方に於ても驚いた、十一萬石の殿様が木綿の着物を召され、一汁一菜といふ事で、ございますから今まで絹布にまつはつて居た家老中老番頭の奥さんだの嬢さんだのと云ふ者は、假に木綿着物を新規に拵ねると云ふやうな事。下帯も六尺では費だから三尺で宜いと云つて、始めて越中襌が下帯を三尺になすつて御締めなすつた。之を越中襌、襌へ名前を殘したと云ふ惡口がございますが、一寸した事が、それだ領分の百姓涙を流して喜んで「此殿様は世直しだア、有難い殿様が世の中に現れた、追付け此殿様が天下の御政治を御執なさるやうになつたら定めて世の中が良くなるだらう」と年をとりました人などは嬉涙を流して其御德を稱しまする、して此越中様は暇があると山狩をなさり、文武の二道を御勵みなさる、士の風儀がカラリと一變を致しましたされば其頃御詠なされた歌に「小手の上に降りし夜知らで厚衾、かさねて夜半の霰をぞ聞く」と云ふ御歌を遊ばし、御自身に自在に鍋を斯う御畵き遊ばして、それへ讃をなすつた

此尻日に三たび燒けば天下平かなり猥に燒けば家を滅ぼす、高き屋の御製も此尻より出でたり、燒かざれば交はる友少なし
貴賤貧福皆此尻にあり

善きにして惡きにになよなべて世の
人の心は自在かぎなり

又御自身に黒船を御覧遊ばし、只今の酉洋形の帆前船、其れに讃をなすつた、此船のよるてふことを東の間も、忘れねばこそ御代は安けれ　と云ふ、少しも御油斷とてはございませぬ、天下の爲に御苦心を遊ばした御方、一体越中様は溜の間詰で居らつしやる、老中などを勤める御方ちやない。それが老中を御勤めになつたと云ふのは此關東大飢饉で人民非常の難儀を致しまする所が老中田沼主殿頭多くの米を買占めまして、己の慾を肥して人民を苦める、いやどうも非常の惡政がございましたので、天明四年三月廿四日新御番役佐野善左衛門政言といふ人が、殿中[illegible]目の間に於て田沼山城守意知をいふ人を斬つて捨てました。是は名高いお話、別に田沼のお話はございますから大略を致しますが、こゝで又米價が騰貴をした、天明の六年丙午歳の正月の元日、巳の上刻から日蝕でございまして、午後の未刻に至りまする迄異聞、一天に星が見はまする、是が爲に諸侯將軍家へ新年の御禮を申上げるのが延引をした。と元日から毎晩々々諸方に放火が流行ります、何でも一夜に七八箇處位火事がある。正月から二月三月四月、一滴の雨も降りませぬ、所が四月の下旬から七月に至るまで毎日びしよ〳〵降り通した、片照片降と云ふのは誠に困ります七月の十二日から十六日まで大雨盆を覆しまする如く非常の豪雨でございまして猿が股の堤が崩れ村數八十九箇村と云ふものを推流して仕舞た、之が爲に死人六百餘人、江戸は有名の新大橋並に永代橋が落ちて、本所、深川は一面の水となつてしまつた、千住から淺草見附を越ねて馬喰町、横山町、堀止、小舟町、鎧岸町、築地最寄、すべて水が五六尺ある。山の手でございましても小石川、牛込、市ケ谷邊は皆水である。前代未聞の洪水た、天正十八年八月一日、德川家康公が江戸表へ御入國なりましてから以來、斯くばかりの洪水と云ふものは無い。此年の春は米が一兩に八斗した。秋になつて兩に二斗五升となつて、サア斯うなると乞食がどうも大分殖ねて、鼻へ付く程乞丐がまご〳〵し盜賊が大層殖ねました、天明の七年になりますと兩に一斗五六升となり、百文に三合五勺と云ふのだ、さア大變市中の人民一方ならぬ困難でございまして、名主町年寄から御救助米を願ひまするど、折しも公儀に御圍ひ米と云ふものが無い、どうすることも出來ませぬ、さう斯うするうちに往來に男女の行倒れが續々出來る、どの町内へ參りましても老人だ老婆だ或は子供だと、ごろ〳〵往來へ轉がつて死ぬ。天明七年五月廿一日の晩になると赤坂の貧民が蜂起をして、町內の米屋を叩き毀し米俵を奪ひ取つて、之を近所の寺の境內へ持運んで、大釜を据ゑましてドン〳〵飯を炊いて、貧乏人が集つて之を食ひ、何でも其近邊の金滿家を片ッ端から叩ッ毀し食物を奪ひ取つて來る。さ翌廿二日青山に又貧乏人が集りまして、物もち町人の家を叩ッ毀して食物を奪取り、赤坂と青山と合併をした。



梨本宮兩殿下を奉迎す

竹の園生の貴き御身を以て、遠く歐羅巴に御研學莊らせられ、艱難具さに嘗めさせらる、其學業を卒へさせ給ふや各國の風俗地理御見學として歐羅巴諸洲を御巡遊あらせらる、西比利亞鐵道によりて御歸朝の途次、滿州に御立寄り遊ばされ、滿州に於ける帝國の施設帝國民の發展を親しく視察を遂げられ更に帝國の保護國たる韓國の狀態をも御視察あらせられんとして、大連より海路仁川に向はせられ、昨日を以て芽出度御無事御着韓あらせらる、回顧すれば今回御同行の妃殿下に置かせられては、昨年宮殿下の御巡遊ひとして、女性の御身を以て萬里の波濤を恐れ給はず、遠く歐羅巴に渡赴せ玉ひたる御勇氣の程、察し奉るだに余輩臣民の雄志を鼓舞せらるゝ心地す、兩殿下には長途の御疲勞もなく最と御雄健に渡らせらる、余輩臣民の喜悅之に若かんや。歐羅巴諸州を御巡遊あらせらるゝや、各國の皇室を御訪問あり、各國皇室の歡待盛にして殿下の一擧一動は其國交上に無限の效力ありしは今更余輩の喋々を要せざる所也殊に殿下が土京君斯丹珍能堡に入らせられし當時は、未だ土國の政變起らず先帝アブダル、ハミッドに御對顏あり、土帝の歡待頗る鄭重を極めたる爲に、殿下の御訪問は日土條約締結に關係あるが如くに喧傳せられたりき、殿下今回の御巡遊は御微行にて正式の御訪問にあらざるも、斯の如く殿下の一擧一動は各國の注意する所となる、是を以て見るも今回の御巡遊が我國交上に多大の效益ありしや推して知るべき也。今や韓國に於ける帝國の保護政治は進展し、韓皇室は將さに肅淸せられて其尊嚴は確保せらる、中央政府の改善は略ぼ成り、地方政治の改善も亦端緒を啓きつゝあり、在留邦人も年毎に增加し今や十有餘萬に達し、其施設亦見るべきものあり、今後官憲の指導宜しきを得ば頗に發展すべき也、兩殿下が親しく之を觀はせらるゝに於ては帝國前途の洋々たるを想見し給はむ、在留邦人も韓國民も殿下が長途の御旅行御疲勞も厭はせられず韓國に御立寄あらせられたるを深く感謝し奉らむ、余輩は滿腔の誠意を以て謹で兩殿下を奉迎す

東京電報

▲要求回答促進　伊集院公使は支那政府に對し安奉問題に就き我政府の要求に應ずるや否やを速に明答せよと要求したり

▲伊藤公の參內　伊藤公は本日大磯に着し明日入京し直ちに參內の筈なるが宮廷よりは特に停車場に馬車を差遣され儀仗兵を付せらるゝ筈なり

▲韓美電鐵の傭人　日韓瓦斯會社は二十一日の株主總會終了の後直に電氣電車の兩事業を韓美電氣會社より引繼ぐ筈なるが使用人は現狀の儘引繼ぎを受けて韓人は解傭せずと

▲伊藤公の伏奏　伊藤公は參內の際聖上に對し親しく統監事務引繼及日韓新協約締結の顚末を伏奏すべしと

▲韓太子巡遊日程　韓國皇太子の巡遊日程は伊藤公歸京の上決定さるゝ筈なるが巡路は上野停車場發、水戶、仙臺、盛岡を經て青森より函館に渡航小樽、札幌を過ぎ室蘭に到りて更に青森に歸着、秋田山形を經て豬苗代、日光を經歸京往復の日程は三十日間の豫定なり

▲亞細亞探險協會　亞細亞の各地を探險する目的にて組織する亞細亞學術探險協會は昨夜上野精養軒に於て發起會を開けり

▲小村外相の旅行　小村外相は醫師の勸告に從ひ昨日橫濱を發し三週間の豫定を以て瀨戶內海、九州沿岸旅行の途に上れり（以上十九日午前發）

雜報

●梨本宮御延着　梨本宮殿下及び同妃殿下を乘せたる吉林丸は十九日午後一時仁川入港の豫定なりしも濃霧のため進行自由ならず爲めに延着の已むを得ざるに至りたるが本稿締切迄には未だ入港の模樣なかりき

●梨本宮御對顏　梨本宮殿下御入京に就き韓皇室並に政府よりは公式の御出迎をなさゞる由は殿下今回の御旅行が御微行なるにより殊更に出迎へを差控へたるも韓皇室よりは强いて此際御對顏を求められたるにより兩殿下にも多分公式にて參內御對顏あるべしと

●日韓協約と米國　韓國政變の報は少からず米國人の興味を喚起したり而して之れを以て日本が韓半島の合併を完全ならしむる爲めに一步を進めたるものと考ふるもの多し同國にては尙は軍部の全く廢止せられしや否や明ならざれども所謂韓國政府は新統監の命令に從ふの外策なかるべきは明なり又縱令然らずとも新統監は伊藤時代に比して一層徹底主義を執るべしと信ぜらるされど華盛頓政府は表面毫も韓國政變の爲めに動かされず蓋し米國政府は一時治外法權撤去に贊成したるものにして今回の韓國司法省廢止は其の前提と見るを得べければなりと紐育の市民は噂し居れる由

●東拓の電鐵事業　東洋拓殖會社計畫の釜山京城間三哩の電車鐵道事業は頗る有望のものなるを以て宇佐川總裁は近日東上し五六の大株主と相談を遂げたる後實行に着手すべしと云ふ

●觀察使會議（十九日）　十九日の內部觀察使會議にては社還米の出納管理の整理等の方法に關し協議する所ありたり

●觀察使陪食被仰付　觀察使一同は十九正午十二時昌德宮に參內陪食を仰付けられたり

●驛屯土管理規程改正　十九日の官報を以て隆熙二年七月度支部令第二十七號驛屯土管理規程中改正の件を發布されたり

●外務部長代理任命　統監府書記官小松綠氏は十五日付を以て鍋嶋外務部長不在中代理を命ぜられたり

●日本人高等官引見　梨本宮殿下には二十日午前九時半より十時迄統監邸に於て日本人文武各高等官五百餘名に引見を許さるゝ由

●民間被引見者　梨本宮殿下には二十日午前二時統監邸に於て銀行會社員等を引見あらせらるゝ趣きにて其旨統監府より夫々へ通知書を發したり

●警務局長訓示演說　二十日松井警務局長は內部觀察使會議に於て保安民籍法等に關する事項に付き訓示演說を爲す由

●各理事官の歸任　理事官會議終了したるを以て若松平壤、天野群山の兩理事官は十八日歸任し仲大路淸津、大枝城津（副）久水元山の三理事官は二十日夫れ〳〵歸任する由

●梨本宮の御隨員　梨本宮殿下の御隨員は安藤大佐渡邊式部官藤井隆子其外家從二名なる由なるが日高內大臣秘書官兼梨本宮御用掛は京城より御歸朝の際御一行に加はる筈なりと

●曾禰統監下仁せず　曾禰統監は仁川に出向し梨本宮殿下を奉迎すべき筈なりしも病氣尙癒えざるを以て石塚長官代理を代理として下仁せしめたる由

●水利組合の所管　光武十年三月度支部令第三號にて水利組合條例を發布し水利の便を開き農產の增加を期せんことを圖りたる結果度支部にては既に設立認可を與へし者四賦課金の認可を與へし者二あり尙ほ其資金に關しては相當の補助をもなし益々設立維持に努力する筈の由なるが元來同組合は內部の所管に屬すべきものなるを以て內部にては度支部が其部令を以て組合を內部の所管に移さんことを照會中なるが未だ決せらるゝに至らずと云ふ

●赤十字社招待會　日本赤十字社韓國總委員部にては各委員部委員長たる理事官及觀察使の來京を機とし去十七日午後七時京城ホテルに招待し晚餐會を催うしたるが却々盛會なりしと

●梨本宮御滯京日程　梨本宮殿下は別項記載の如く廿日午前九時半より十時半迄日本人高等官其他伺候の諸員を御引見遊され同夜は統監邸開催の奉迎宴に臨ませらる▲廿一日は未定▲廿二日は午前龍山軍司令部に御成同所に於て大久保軍司令官西島師團長以下將校一同御引見午後四時愛國婦人會に臨ませられ續ひて倭城臺御散步居留民團設備の場所に於て御休憩又同夜は大久保軍司令官の催しに係る奉迎晚餐會に成らせらる御退京期は未定なり尙廿日は韓皇に御對顏あり同日韓皇は統監邸に御答訪あるべしと承はる

●韓太子教育府　伊藤公は韓國太子大師の職をも辭せんとする旨過日韓帝に奏上したるに韓帝は深く公を信任せられ是非とも其職に留まり呉れるやうにとの御諚ありし由なるが確なる筋に聞く處によれば公は此際大師の職は之を辭し新に我宮內省に韓國皇太子教育府（但し名稱は未定）を置き岩倉宮相、末松樞密顧問官、栗原宮內書記官を府員とし且韓國宮中よりも一人の親任官を派出せしめて府員に加へ公自から總裁となり經費年額十四萬圓の豫算にて其半額宛を日韓皇室費より支出せん意見にて既に宮內省及び韓國政府の承諾を得たりと大每は報ぜり

●遠藤氏送別會　附同氏辭職の原因

鐵道廳事務官經理部長遠藤剛太郎氏は今回辭職の上歸朝することゝなりたるを以て同廳高等官一同は氏の爲に一昨十八日京城ホテルに於て盛大なる送別會を開催せり氏今回の辭職は如何にも突然にて其理由の何たるやは推測に難きも道途の說によれば氏は先立ての冗員大淘汰に付大屋長官と見を異にせりとかにて大に爭ひたりとの事長官にも氏を態々臺灣より呼寄せたる程の間柄なるを以て可成は氏の意見を排斥せざる樣に勉められたるもされはとて善惡共に氏の意見を容るゝ譯にも行かざりしに遠藤氏は如何なる動機よりか其後長官に向つて反抗的態度を持し不穩の言を弄する等の事も數次あり遂に辭職を申出づる迄に至りたるなりといふ

●支店長會議終了　大韓銀行に對する引繼準備の爲め會議中なりし第一銀行支店長會議は十九日を以て終了したるが各支店長及出張所長等は二十日頃より夫々歸任すべしと

社告

季正に七月中旬諸會社及銀行の半季決算報告も既に完了を告げ追々發表されんとす、而して此等半季間に於ける諸會社及銀行の營業狀況及事務の經過は即ち一般經濟界並に實業界の趨勢如何を語るものに非ずして何ぞや、吾社爰に見る所あり即ち記者を京龍仁間に派し諸會社及銀行の當事者に就て之が營業の狀況及事務の經過を聞知せしめ以て連日の紙上に發表せんとす之れ蓋し現下に於ける經濟界並に實業界の爲め聊か參考の資料に供せんとするの微意に外ならざるなり

●京城民團の奉迎　京城居留民團にては梨本宮殿下同妃殿下に對し敬意を表する爲本町三丁目に綠門を造り尙來る二十二日愛國婦人會へ臺臨の御歸途南山公園に御立寄りを請ひ各種の盆栽を御覽に供し新調の朝鮮產便殿用具一揃を獻上する由

●各地穀物相場　度支部主稅局最近の調查に係る各地米大豆相場左の如し

	玄米（上）	玄米（中）	大豆（上）	大豆（中）
仁川	九、三〇	八、八〇	五、四五	五、一〇
江景	八、〇〇	七、八〇	四、四〇	四、〇〇
群山	八、四〇	八、二〇	四、九〇	四、〇〇
木浦	八、九〇	八、七〇	四、八〇	四、三〇
馬山	八、八〇	八、六〇	四、八〇	六、四〇
密陽	八、四〇	八、三〇	五、五〇	五、四〇
海州	七、五〇	七、三〇	三、七〇	三、二〇
平壤	八、一〇	七、〇〇	六、二〇	五、八〇
龍岩浦	八、五〇	八、〇〇	五、五〇	五、三〇

因に右は何れも日本升一石の價なるが只江景は目廻し一石二十一貫五百目を以て標準とせり

●韓國禁輸入品　通常又は小包郵便に依り韓國に輸入する事を得ざる物品に就ては從來も夫れ〳〵規程ありたるが多少不備の點ありしを以て前の規程を廢し今回更に左の如く遞信省告示を以て制定發表されたり

韓國に輸入するを得ざる物品　阿片（藥用のものを除く）僞藥、擬造貨幣類、軍器類（見本又は遊獵用者は護身用の物品にして韓國政府の許可を得たるものを除く）白銅貨地金、貨幣鑄造用模型

●韓國關稅改正說　韓國に於ても來る四十四年の本邦の條約改正を機とし關稅を改正せんとの說一部の間に傳はりつゝあるが右は官界の或る方面に唱へられつゝあるに過ぎずして其の成立は覺束なかるべしとの事なり

●統監府の官制改正　韓國司法權委任並に中央銀行設立に關する日韓新協約發表に伴ひ統監府官制の改正を行ふ由にて目下法制局にて調查中なれば近日樞密院に御諮詢の上發布せらるべしと

●愛婦臨時集會注意　來二十二日午後四時より南山本願寺に於て開催の愛國婦人會臨時集會に出席すべき一般會員の服裝は婦人の事とて心配する向少からざる由なるが右は質素にして不敬に涉らざるを旨とし別段紋付などに及ばざる由尙此際入會希望の向は韓國本部（統監府內）又は重なる婦人役員に申込めば出席差支なしと

●民長會頭の奉迎　熊谷民長及中村商業會議所會頭は十九日仁川迄御出迎申上げたり

●普通學校生徒奉迎　普通學校四年生以上の學生は沿道に御出迎の筈なり

●仁川民團の開會　仁川民團にては二十日午後七時より同所樓上に於て民會を開き二三要件に就き協議する筈

●鑛業明細表提出　鑛業明細書は七月末日迄に提出すべき筈なるにより斯業者は怠りなく提出せらるべしと

●平南間航海休止　平壤地方は數日來の大雨の爲め大同江は非常の增水を爲したるを以て平壤南浦間の航路は危險に付平素の通り減水する迄航海を休止す可く而して同地兼二浦間は辛うじて航通を爲し居れりと

●釜萊輕鐵客車注文　東萊、釜山鎭間の輕便鐵道は一兩日前より軌道の敷設に着手せし筈なるが客車は目下名古屋及び熊本の車輛會社に就き注文書を取寄せあれば回答次第にて直ちに注文すべしといふ

●全羅南北道の人口　全羅道は比較的人口稠密なれば確かに兩道共人口二百萬を下らざるべしと

●書記官と教監會議　地方教監會議の爲め隈本學部書記官は平壤に柳田事務官は大邱に小田書記官は水原に二十一日出席することゝなれり

●內部大臣の招宴　十八日夕朴內部大臣は各部大臣、次官、觀察使を淸華亭に招き小宴を張りたり

●李學相の晚餐會　李學相は十九日夜次官及觀察使を搬翠樓に招き晚餐を饗したり

●講習會講師出張　平壤夏期講習會講師宗像、橫地大邱同會講師齋藤の各教授は來る二十四日出張する由

●軍司令官の視察　大久保軍司令官は二十三日午前十時副官岡本參謀足立中佐各部高級部員を隨へ南韓視察の爲め出發の豫定

●梅法學博士の入京　法典調查局顧問法學博士梅謙次郎氏は十七日入京天眞樓に投宿したり

●大韓毎日發賣禁止　大韓每日申報國漢文一千百五十號諺文六百二十七號は治安妨害の廉に依り十八日發賣頒布を禁止されり

●馬淸國領事下仁　淸國領事馬廷亮氏は四五日前下仁目下滯在中なり

●日韓共同組合設立　過日理事官會議の議題に上りたる道路衛生

●民籍調査と間島　內部民籍課にては各警察分署等に命じ民籍

查を見合す筈なりと

●平元鐵道と京龍仁　平元線を是認するあり此際京龍仁に於ても共同運動開始の要ありとし近々本部を龍山

費用は一箇所に付約千圓平均にて政府より

近來稍見るべきものあるに至りし由に該

●元山稅關の大棧橋　元山稅關にては福

十二間長百五十間の大棧橋を速成工事を以

公人私人

▲三浦義深（龍巖浦營林廠技師）　三日月に投宿中十七日歸浦
▲渡邊村男（大邱民長）　浦尾に投宿中同日歸邱
▲名和勝（鎭原金融組合理事）　同日歸原
▲木下重松（釜山稅關港務官）　同日歸釜
▲磯田勇治（內部技師）　十七日入京佐藤へ
▲森肇（代議士）　十七日入京三ヶ月へ
▲小橋薰（農銀春川支店支配人）　十七日入京同
▲宇野早苗（濟州裁判所判事）　同日入京京城ホテルへ
▲岩崎直英（仁川民長）　十八日歸仁
▲矢野久三郎（平壤財務監督局長）　十八日歸任
▲上林敬次郎（開城參政課長）　十八日入京京城ホテル
▲北山波治目（辯護士）　同浦尾へ
▲森岡俊之助（水原林業事務所長）　同三ヶ月へ
▲飯田章（京畿警察部長）　同不知火へ
▲河崎猪鹿（晉州署長）　同牧野へ

近事片々

▲淸國●　皇帝大元帥となり一切の權限を攝政王に委任せらると攝政王の權威益々振ふ
▲攝政●　王の權力增大は淸國現下の政界に如何なる意味含るか帝國に取りて抑も如何
▲慶親●　王の勢力減退肅親王の勢力增大を意味せざるか帝國對淸策に何等影響なきか
▲極東●　平和の爲め帝國が大陸經營を完ふする爲には現在の政策に一展進を畫す可し
▲滿韓●　經營の統一を計る爲には更に規模を大にする必要あり滿韓大守を置くも亦可也
▲統一●　を計らずして局部の事に齷齪するは帝國の使命たる大業成就の所以に非ず
▲司法●　權委任を受る上は費用は勿論最初に於て日本の負擔たるべし是れ考慮を要す
▲宗主●　權を實行する上に於て些々の負擔を厭ふ可らず併し我國庫の負擔も輕からじ
▲費用●　問題に就ては當局に於て既に良法の案あらむ遣莫適宜の方法を講ずべき也
▲學部●　廢止は斷行せられず實際韓國は學部獨立の必要を認めず內部に合す可也
▲韓國●　現在の狀態にては學校教育よりも農工實地の教育こそ肝要緩急を辨ずべき也
▲詩を●　作るよりも田を作れとは韓人に對する適切の教訓日本教育制を移すは甚だ非
▲獨逸●　新內閣組織せらるホールウエヒ內相替つて宰相となるホ氏は上候の信任者也
▲是を●　以てビユロー退くも政策に變態なからむ況や獨逸は是カイザル本位なれば也
▲新宰●　相ホールウエヒ氏は其名聲未だ世に知れざるもビ侯門下の卓拔せる秀才也と
▲富豪●　オスカルロスチヤイルド維納に於て短銃自殺を遂ぐと是れ何の爲の自殺にや
▲澁澤●　男酒匂博士の自殺は與みせずと罵り爲に世の誤解を受けて批難せられ居る
▲會葬●　者皆泣くも澁男獨り泰然自若たり逆批難せる者あり泣かぬは泣くにいや優る
▲ニコ●　ライ神學校長瀨沼の妻夏葉女史は露國書生と通じ兩人手を取て浦鹽に驅落す
▲夏葉●　女史と云へばチエホフ傑作集の著者として才媛の名ありし女史此體は何事ぞ

▲外相の辭意

東京電報

小村外相の辭

韓美電鐵の同盟罷業
▲十八日以來全線の停電
▲運轉手車掌百名の罷業

漢城府内唯一の交通機關として近く日韓瓦斯會社に讓渡の契約整ひたる韓美電氣會社は去る十八日朝に至り俄かに全線電車の運轉を停止したるが今其眞相を左に詳報すべし

▲保證金と慰勞金　韓美電氣會社々長米人コールブラン氏は其管掌せる同會社を日韓瓦斯會社に讓渡する事となりたれば是れを機會に一旦歸國する事となり今廿日京城出發の豫定なりし然るに同社の車掌運轉手等は今より一週間以前豫て差入れある保證金二十五圓の返却及び十年以上勤續者に對する慰勞金をコ氏に請求せんと協議一決して同社に其旨請求したり

▲會社の不得要領　元來同社の車掌運轉手と孰れも韓人のみなるが之等の韓人は最初採用の當初に於て會社に保證金として十圓乃至二十五圓を納むる規約となり居り何れも其の手續を了して勤務することゝなり若し後日に至り退社する際は該保證金は本人に返還さるゝのみならず勤務中の勤怠に應じて相當賞與金をも與ふる約束なりけるがコールブラン氏が會社を讓渡して歸國するに於ては此の際之れ保證金を返戾さるべきものなるべしと言ひ事茲に至り一同夫れと決心し居たれば斯くは會社に向つて請求したるも會社は即答を與へず去れど彼等一同は此儘泣寢入るべきに非ざれば去る十六日コ氏に向ひ直接要求する處ありたり

▲コ氏遂に刎付く　然るにコールブラン氏は如何なる理由にや一切之れに耳を假さず冷淡にも會社は左樣な責を負ふべき者に非ずと素氣なく刎ね付けたるも彼等は尚ほ念の爲め十八日午前十時五六名の總代を選び再びコ氏を訪ひて契約の實行を迫まりしも遂に要領を得ざりき

▲遂に同盟罷業す　素氣なく刎ね付けられたれば流石に人善の彼れ韓人等も遂に勘忍袋の緒を切らし十八日午前中に於て車掌、運轉手等約壹百名同盟罷業したれば百餘臺の電車は茲に全く運轉を停止されたり、而して罷業中約六十名は又々會社に押掛け内部に闖入せんとしたり

▲警察の非常警戒　此暴擧に接したる會社にては中部警察署に向ひ保護を願ひ出でたれば同署にては數名の警官出張して鎭撫に努め且つ穩かに談判を試み同盟罷業を思ひ止まり直ちに就業すべく說諭を加へたり、されば彼等は一旦其場は解散して引上げたるも夜に入りて西部の某所に集會したりとの事に警視廳にては万一を慮りコ氏の私宅、同銀行、會社、龍山麻浦出張所等を警戒しつゝあり

▲電燈の方は如何　東大門の發電所は市内各工場に對する動力供給の小機械一つのみを運轉し他は總て運轉を止め居れり又電燈の發電所は龍山に在り且つストライキは未だ火夫仲間に及び居らざるを以て幸にして電燈には故障を來さゞるも尙ほ警戒中なり

▲今後成行とコ氏　今後の成行は俄かに揣摩すべからざるが一同の決心は甚だ堅き者の如くなれば會社に於て彼等の要求を容るゝ迄は到底就業せざるべく尙ほコールブラン氏は此の問題を憂慮したる爲め解決を見る迄歸國を見合するの已む無きに至り目下二三の人中間に立ちて頻りに雙方を斡旋しつゝありと一說に依れば保證金のみは二三日中に返却するなるべしと

▲同盟罷業と損害　韓人が斯く同盟罷業を企てたるとは今回を以て嚆矢とするを以て此の問題の成行に就いては頗る注目すべき價値あるべし而して電車の停止は實に十八日朝より初まりて一日間に渡り本稿を草する迄運轉なかりしが何れ保證金の拂渡しを爲し且つ何等かの條件ある迄は到底就業せざる可くされば本問題は何時解決するや計り知れず因に停電の爲め同會社一日の損害は四五百圓に上るべしと

●牛氣違の酌婦　西小門通　東京樓酌婦吉永カズと云へるは殆ど牛狂ひにて是迄屢警察の手を煩はしたる女なるが去る十八日午前四時頃南部署に駈け込み只今南大門裏通りたちばな亭に於て大騷動起り居るを以て至急御臨檢ありたしとの事に警官出張して取調べたる處此のカズは東京樓に於ても遂に持て餘し其保證人たるたちばな亭に突き返したるが其前夜たちばなの主人が彼れを連れ歸る途中西小門通りに喧嘩し居たるを以て折柄通り合はせし越中屋事上田淺次郎が仲裁せんとしたるをたちばなが怒り遂に上田に負傷せしめたる爲め太平町の永樂亭西小門通りの横濱亭等の同業者が右上田と共に、たちばな方に至り談判なし居たるものなりしかば警官は雙方に說諭を加へて鎭撫せしめたり尙ほカズは其際上田の爲め金二圓を奪はれたりと訴へたるも事實に疑はしき廉ありしを以て之れ又說諭で事濟みとなる

●少年警察を欺く　一昨日午後五時頃年頃十七八の少年仁川警察署に出頭して曰く私は大分縣生れで奧稲藏(十七)と云ふものにて一昨日漂然渡韓せしも旅費なく殆んど困窮し居れば保護を加へられたしと申立てたれど其の言語頗る曖昧なるものあるより更に取調べたる所右は本年始め京城南大門通り和田常市氏方の店員たりしが青春の血の燃ゆるに初めて何時までも店員をして居ては詰らぬと思ひ一昨日無法にも無斷家出をなし上海に渡らんものと仁川に來りたるも素より身に一錢の貯ねもなき身の如何でか其目的を遂せらるべき忽ちにして糊口にさへ困じたれば前記の如き虛僞の訴ねをなしたること判明したれば警官は和田方に電話を掛け引取方を申し傳ねたるより和田方にても所在を搜し居たる所なれば直に下仁して龍殿を引き取りたりと

去る五日中檢の芝居の際營四の戸浪に扮し源藏と相俟つて雙美と賞されし花月樓の桃太郎



●汽車中で喧嘩　仁川宮町三丁目印刻師山田庄太郎と云ふは一昨日所要ありて京城に來り終列車にて歸仁の際汽車中にて支那人と喧嘩をおつ始め打つ毆ぐるの果て過つて便所の硝子戸を打ち破りたるより桃硯驛助役は仁川警察署に右辨償方說諭の旨訴ね出でたるより警官出張取調べの結果辨償金一圓を出さしむることにして事濟む

●電車内で負傷　旭町二丁目十七番戸洗濯業島田方雇人高田藤太郎(二七)は去る十七日午後五時三十分南大門より鐘路方面に向ふ電車に乘じ南大門通二丁目一番戸雜貨商建井愛吉方に於て電車の行進中下車せんとして階段に下り左手にて車柱を支へ上体を車室の外方に顯はしたる儘行進しつゝありしに同建井方前の電柱に頭部を打ち當て車上より顚落絶息したるを巡査驅け附け手當を加へたれば五分間程を經て正氣に復したるも數ケ所に負傷せるを以て本町一丁目池田醫院に連れ行き治療を加へて自宅に引取らしぬ

●轢死者の身許　仁川署管内素砂驛附近に於いて去る十三日轢死を遂げたる一邦人男ありたることは既報したる所なるが右は仁川花町三丁目羽野仁助長男庄太郎(二三)と云ふが去る十三日の朝家出し行衞不明となりたるものと其の相好酷似するものあるより仁助は仁川署員同行し昨朝現場に出張したりと

●納涼會の盛況　既報の如く十八日午後七時より京城ホテルに於て催したる日韓書房の納涼會は頗る盛會を極めたるが來會者は蓄音器所有者は勿論其の他民間の有志家新聞記者等百餘名最初蓄音器奏樂落語等あり終つて食堂を開き散會したるは午後九時頃なりき

演藝

▲●●歌舞伎座●●　彰義隊一派の新演劇本日より開場觀覽料は三十錢均一にして初日御目見得狂言は「叢雲」とて彼の兄殺し全九場にして役割左の如し
娼妓小藤(西井)　仲居梅(本田)　黑染金次(桂木)遊人銀治、初子(河野)　刑事三輪信一(川上)淸水太郎(角村)兒分留公(玉川)母れ島(中村)　兒分鐵三(大和)　淸水三郎(間宮)若林新三(松村)坊主海念(小谷)村娘れすぎ(小紳)親族佐藤文助(天草)陸軍步兵少尉淸水次郎(愛澤)若者熊造(三島)淸水安右衞門(美崎)　一ノ瀨警部村長、堤(篠崎)巡査越山誠(鈴木)

▲●●永樂亭●●　辰丸等の浪花節は龍山御園館に行く其跡替りとして今廿日より左の如き諸藝大寄せを爲すと
浪花節(菊若)源氏節(美根松)同(美根由)敎賀新内(若太夫)落語(百朝)

▲●●仁川歌舞伎座●●　昨夜より美當一調の日露戰爭實況談及び三好數馬の筑前琵琶を開演

▶平民文庫◀

▲藤隈旅館の主人の名は藤秀丸と云ふこと位ひは誰れでも知つて居て別段不思議でもなければ可笑しくも無いが其旅館の名は伊藤公と大隈伯さが日本で偉い人であるからとて其苗字を一字宛取つたのださ云ふから面白いぢやないかね(穿鑿家)▲汝自由に快樂をなせ、然れども其快樂をして苦痛たらしむる勿れ(哲人)▲十八日の夜南大門から太平町へ曲る角の所でタイガー印刷所と云ふ大字を記したる番傘を翳して人逆が七八人で魔窟征伐の軍議を凝らして居たが僕が通り過ぎる迄は評定一決に及ばなかった(東京亭)

▲郵便局で切手を求めてゐると中年增の小意氣な婦人が「誠に相濟みませんが電報の文言を用紙に書いて下さい」と云ふから早速認めて遣つて外へ出ようとすると「モシ此の名宛には「サマ」が落ちてゐますが」(避易子)▲各方面の淫賣窟の不景氣な事と云つたらない、是は一つは暑いからだ、燒芋と懷爐とそうして女は冬にしてよいと云ふことを此所に言明する(平民)▲太平町に蒲鉾屋が出來たソシて夜になると玉子燒きを擣へて居るが甘味そうだ(通行人)▲意地の汚い通行人だ(小僧)▲旭町の燒跡へ鰻ばかりの釣堀屋が出來たが十八日の夜僕が散步の序に立つて見て居ると廿三四の車夫体の人が釣つて居たが一尾もかゝらぬので自棄を起して此の鰻はチヤンと仕込んであるから釣つて掛らぬ馬鹿らしい皆んな釣つても五十錢がものはないのに一尾も釣らずに六十錢玉屋にしたと云つた居た(一閑人)▲歌舞伎座の入口橫町の角に愈々本日限りとあつたが何も其樣に恩に掛けて吳れなくてもよいのおやよ(中國人)▲眞瓜が出たけれどまだ美味くない(ヨボ)▲容色で世を渡つて居るもの稼日の暮れるのを果敢なむものはない日が暮れると蛾が一つ殖ねるのだから(東洋生)▲當地で夫婦が喧嘩をして女房が旅費を請求する間は本當に出る氣はないので、又出て行けと云つた亭主が旅費を拋出さない間は此れ又本當に出す氣はないのであるから仲裁に這入つた人は此邊の消息を心得てかゝらねば飛んだ間違ひの出來るものだ(小哲士)▲酌婦や仲居に往來で挨拶せられる程迷惑なことはないまして其姓名を大聲で喚かれるに至つては論外だ(石井洞人)▲書留郵便物の配達を受けた時は迅速に記名手續をして戴きたいものです(一配達夫)

●紳士の遊興振　右は紙面の都合に依り本日休載

●天氣豫報(自十九日午後六時至二十日午後六時)　南の風曇後晴
十八日(華氏)　最高溫度　七八、四　最低溫度　七九、四

……等に關する日韓兩國……監府にて審議中なるが輙まり大第内部の意見を徴し決定さるゝに至るべしと

……の筈なるが崗島は本年五月既に憲兵隊にて略ぼ調査済みとなり居れるを以て今回は調査を……さるゝ如く傳ふるも不撓有志側の運動も却々侮るべからざるものあり殊に後藤遞相の……

●各道物品陳列所　十三道に設置したる物品陳列所は各道とも多少此費用よりも支出することゝなるべく政府よりも又此上補助すべき計畫なりと

……て架設することに確定し本年十月頃には其の大部分を竣工せしむる豫定なるが工費は三十萬圓なりといふ

●配達出拂　……氏は回復見込なく鄭重なる……田氏の任に擬せらる(十九日夕發)　午後七時三十分

各種 洗濯石鹸 專門製造販賣

用途 一 陸軍、鐵道、船舶、鐵工、鑛山、水道、湯屋、散髮、諸工業用

京城旭町二丁目 (電話九七三番)

朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●專賣特許 軌條用の旅行枕韓國分權の希望者を需む 氏名在社(二九七)

●實用新案 携帶至便の旅行用硯の韓國分權希望者を需む 氏名在社(二九八)

●被雇度 年廿五体强精米業多年經驗京仁間精米所に雇はれたし確實保證人有 氏名在社(二九九)

●中等教育有る廿七の青年報酬多きを不望會社、商店に雇はれたし 氏名在社(三〇一)

●年卅五多年鐵道工務(又簿記精通)の經驗有り市內保證人有り相當處に雇はれたし 氏名在社(三〇二)

●望外人女中 外國人の女中又は小供守に被雇度年廿四体健給料不望 氏名在社(三〇三)

●被雇度 簿記に精通の中等教育ある二十才の青年會社銀行店舖等被雇度給料不望保證人あり 氏名在社(三〇四)

●小僧ノ用 十四歳以上十七歳以下のもの一名至急入用委細面談大漢門前遠藤洋服店

●下女入用 十六七歳より廿三四歳迄のもの數名入用 南大門通 紅葉

●行商人募集 石油行商人二十五歳以下身体强壯志想堅實勞働を厭はず忍耐力ある者本人來談 龍山元町三日韓組(三〇七)

●英文代書 通辯應需 本町一の七五中村

物件部

●夏向露店 旭町一民團役所燒跡附近にて夏向恰好の露店二個所あり希望者は至急申込あれ 氏名在社(二九五)

●電話格安賣物あり 氏名在社(二九六)

●電話讓渡 格安又は月賦讓渡の相談に應す 氏名在社(三〇〇)

●製縄機械廿臺○綛機械○藁打機械一臺安價に賣却す大和町二の二九 渡邊方山本

●中古寫眞器一揃一個格安に賣却したし 氏名在社(三〇六)

●地所賣却 第一銀行建築場に接近せる大道目貫の場所に有望なる地所家屋賣物あり 本町一の七五 中村

廣告

●臺灣總督府專賣局製劑 (専賣局指定)

デシン

藥學博士下山順一郎先生發明 (豢畜確實 用法簡便 無毒安全 價格低廉 藥店ニアリ)

發賣元 神戸 後藤商店

代理店 京城 新井藥房

男女生徒募集

簿記學速成教授 規則書 郵券二錢

但一人每に教授す何時入學するも差支なし

新式 官廳簿記學教科書 代五十錢

京城壽町二の三七 統監邸下

京城簿記學校

入○○院○○○○隨○○○意

松岡醫院

南山町二丁目

電話六七五番

各○○○科○○○○診○○○○療

東京 (商標)

正札付 大安賣

厘も引なし

安心して買へ升

京城大和町二丁目の出橋横

藤井出張店

本店東京

登錄商標

外用 塗擦 治瘡藥 (ぢ そう やく)

最大瓶 一圓二十錢 大瓶 六十錢 中瓶 三十五錢 小瓶 二十五錢

○せんしんたむし○なます○せにがさ○ひんきんたむし○しらくも○くさかぶり○ずがさ○みずむし○ひせんがさ○がんがさ○しもやけ○うるしまけ

其他皮膚病一切に特效あり

右は弊店世に傳ふる處の靈藥にして皮膚病一切に用ひて卓效あり從來此によりて幸福を得たるもの其數頗る多し今回大方諸君子の懇請默しがたく材料を精選し輓近の醫學に照らし加味靈梅劑を正確にし官許を得弘く世に發賣せんとす世の皮膚病に患める士女願はくは一度本劑を試用し効果の顯著なるを御實驗御高評の程奉願上候

調劑發賣元

仁風堂浦尾

韓國京城南部壽町 丁目浦尾旅館

きち

明治廿年七月創立

東京火災 海上運送 保險株式會社

京城代辨店 本町四山口吳服店 電話九番

資本金一千萬圓 事務所 京城本町二の三電話一〇六〇番

暑中御進物用品

㋚佐藤牧商店

◉ビール各種 (美裝ダース函入 同 切手)

◉淸酒各種 (同 切手)

◉サイダー各種 (函詰色々 同 切手)

◉ウイスキー各種

◉ブランデー各種 其他

◉ブドー酒洋菓子各種

京城本町二丁目電話二九番

美術書畫

襖、壁、天井張

京城壽町一丁目

桂萬吉

諸官衙御用品調達

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸染料類

各學校御用品調達

委托販賣

東京 ランバーグ商會代理店

東京 中外アスファルト株式會社代理店

東京 千代田生命保險相互會社代理店

藤田合名會社

東京 博文館發行書籍特約店

東京 金港堂發行書籍特約店

釜山 鹽合資會社食鹽特約店

本社 京城明治町二丁目 電話二三〇番

出張所 東京京橋區南鍋町一丁目十番地 電話新橋三九六二

本所は江湖の依賴に應じ誠實迅速に鑛物鑑定及分析に從事す

手續書は郵券一錢五厘御送付次第送呈す

擔當者は元鑛山監督分析署技師粟野德一

鍾路通一丁目

漢城鑛物分析所 (電話二三八番)

軸物表裝

金銀屏風

額面換一式

壁張天井張

古香堂

京城明治町二丁目 火の番横 山本平治

工場新築落成に付當分の間 二割引

梅毒專門

皮膚病一般

痔注射療法(不要入院)

京城南大門郡市場櫻家旅館內

神戸養生院長

出張診察所 電話三百十二番

院長府立大阪病院專攻

元兵庫縣立神戸梅毒病院醫長

醫學得業士 瀧田耕平

○資力乏しき病者には割引又は施療を爲す

南門湯横に病院新築中に付き本月末移轉開院す

待合 (紋)

▲淸潔の下宿▼

客室の淸潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間續々御投宿の程御願申上候

壽町二丁目十番戶横小路 (元 北 屋 跡)

かめ屋

▲懇切の下宿▼

(大) (分) (萬)

特約販賣自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

大上商店

和洋酒、㊉精酢、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尙御望に依り商品切手調進仕候

(電話二五一番)

荒物世帶道具一切

大坂 ㊀製白絞油和洋蠟燭

和傘岐阜提灯魚釣道具

卸小賣

地方在住の各位には御申越あり次第代金引替證付又は代金引替小包郵便を以て御送付申上候尙弊店營業品目錄御入用の御方は御通知あり次第送呈申上候

荒物世帶道具

各國諸油米穀

銘酒澤龜 アサヒ サッポロ 麥酒

並に買次業

京城本町六丁目

㊇西 西崎嘉七本店

電話長二一〇電略(ニカ又はニ)

振替貯金口座東京(九四一七番)

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す弊場夙に此に留意し良好の食料を給す

●弊場搾取の牛乳を受飲せらるゝ御諸君は最も滋養に富み風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし

京城本町五丁目(電四七番)

販賣元 仁川 松尾支店

京城東四軒町(電七五番)

搾取所 松尾牧場

支店開設披露

今回左記の所へ支店開設致し候に付開業披露として左の如く割引販賣仕候條御愛顧願上候

自六月十五日 至八月十四日 六十日間

金銀懷中時計各種

掛置時計各種 一割五分引

附屬品一切

外に貴金屬附屬品に限り五分引

時計自轉車小賣部 京城本町二丁目 喜多金光堂支店 (電話架設中)

時計自轉車卸部 仁川本町三丁目 喜多金光堂本店 (電話七百五番)

元祖

消毒殺菌

牛乳・千山牧場

京城大和町壹丁目

電話一三三

南山の風景を目前に眺め浴場の設備あり

待合 賀席 (紋)

京城南山町一丁目

◉氣候變化=牛乳

◉牛乳=純良=消毒

㊇韓國畜産株式會社

南大門外(電話八八番)

銘酒

(樽)

釀造元 仁川港 大森酒場

酒

韓國一手發賣元

㊇永島商行

京城日の出町一丁目 (電話架設中)

日本郵船株式會社

(旗) 滊船出帆廣告

仁川海岸通 電話二九番

貨物及船客取扱店

郡回漕店

●釜山、長崎、門司、神戸、大阪 八月一日午後三時出

山 東 丸

●大連、太沽、牛莊行

高 砂 丸 八月五日正午出帆

●大連、大沽、牛莊行

山 東 丸 七月二十日午前五時出帆

●大連、大沽、牛莊行

酒 田 丸 七月二十二日正午

●釜山出帆、元山、淸津、浦鹽行

立 神 丸 七月二十八日午後

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ス

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金五十錢 三ヶ月前金一圓四十錢 六ヶ月前金二圓七十錢 一年前金五圓

●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢 四號活字十九字詰一行金六十錢

發行兼編輯人 秋山雄三郎

印刷人 高木久壽太郎

發行所 京城 京城新報社